

## ベトナムの生活と文化

ベトナムは東南アジアの中心に位置して、南北に細長く、S字型である。国土は北部・中部・南部に分けられる。北部の中心はハノイ首都であり、中部はフエ古都であり、南部はベトナムの最大都市であるホーチン市（旧名はサイゴン）である。地域によって、気候、風俗習慣が異なる。

### 北 部

北部は亜熱帯性気候に属していて、四季がある。北部の中心となるのはHONGデルタ（紅河デルタ）であって、残りは山岳地域である。紅河デルタはベトナムの国家形成の源であり、ベトナムの稲作文化の起源だといわれている。ハノイ首都から100kmくらい離れているフー・ト県には、Hung Vuong（雄王）神社がある。雄王はVan Lang（文明国：ベトナムの最初の名前、紀元前2000年頃）を建国したので、ベトナムの先祖だといわれる。雄王はBanh chung - Banh day（粽・餅）というベトナム独特の食べ物



Banh chungをつくる

餅はベトナム古代人の世界観・宇宙観を表す。粽と餅はお米、豆、肉からつくられ、Dongという葉で包まれるが、それは、世界は動物と植物を含むという意味を示している。そして、四角い粽と丸い餅は、地の四角さ、空の丸さを表している。現在、粽と餅はベトナム人のお正月に欠かせない食べ物である。

雄王時代から現代まで、北部はベトナムの政治・文化の中心である。様々な祭りや伝統芸術が北部で生まれ、時代を経て伝えられてきた。農業社会の特徴として、ベトナムの文化は稲に結びついている。いろいろ

な祭りは米の収穫時期に行われ、収穫を祝うとともに、次の栽培の成功を祈る。



北部の衣服

な祭りは米の収穫時期に行われ、収穫を祝うとともに、次の栽培の成功を祈る。ところで、現代のベトナム人は洋服を着ているが、20世紀の頭までは、伝統衣服を着ていた。女性の服装は4枚の布を縫い合わせるシャツと長いサテンスカートとシルクベルトというAo tu than（アオ・トゥ・タン：4スリット服）である。このシルクベルトはアオ・トゥ・タンの中で最もおしゃれな部分だといわれている。既婚の女性は地味なシルクベルトをするが、未婚の少女は青・緑・黄色などの派手なものをする。男性の衣服は全国統一で、普段は茶色いシャツとズボンであるが、冠婚葬祭の時に男性は黒、青、あるいは紺色の堅い生地で作ったAo dai the（アオ・ザイ・テー）を着る。アオ・ザイ・テーとセットになるのは、幅7センチの黒い麻布を巻きこんだKhan dong（巻き込みスカーフ）と呼ばれる特別な帽子である。

また、山岳地域に居住している少数民族は各民族の衣装を着ている。民族によって違うが、ベトナムの各少数民族の服装の共通点は、草木や動物の派手な柄を刺繍していることである。

### 中 部

北部と南部をつなぐ中部は、ベトナムの気候が一番厳しい地域だといわれている。毎年、中部の人々は台風、洪水、旱魃などの天災に直面している。ベトナムの世界文化遺産の5つの中で、4つが中部に位置している。それはフエ古都、ホイアン旧市街、ミソン聖地、フォンニャ鍾乳洞である。

中部の最も有名な場所はCo do Hue（フエ古都）である。19世紀以降、1世紀半ぐらい阮朝の首都であったので、フエ市は宮廷芸術の都としても有名になった。宮廷芸術といっても、宮廷だけでなく、貴族階級でも普及された。現在、宮廷の詩歌、舞踊が民間で守られていて、毎年のお正月やお祭りに、フエ市民はこれらの芸術を楽しんでいる。



中部の衣服

服装については、フエ市の女性の服装もしとやかな美しさを持っている。フエ市の女性は淡い紫のAo dai（アオ・ザイ：長い服）を着て、白い帽子をかぶる。Ao daiの淡い紫はフエ市ならではの色なので、フエ市の紫と呼ばれる。フエ市の女性がかぶる帽子も特別である。実は、このヤシ

の葉から作られた帽子はベトナム全土の女性がかぶっているが、フエ市の帽子だけに詩が書かれる。したがって、フエ市の帽子はNon bai tho（詩の帽子）と呼ばれている。

片側を南シナ海、反対側をラオスとカンボジアに挟まれ、山、海、平野も含むこの地域は有名な旅行地である。豊富な文化を持っている中部には、Kinh民族（ベトナムのおもな民族）風の文化以外に、チャム民族風の城址、中国風のお寺、日本風の橋などもある。

中部は好学伝統でも有名であり、封建時代の科挙制では、中部の人は高い学位を得た。ベトナムのお父さんと呼ばれるホー・チ・ミン主席も中部出身であった。

## 南部

南部にはベトナムの最大平野－メコンデルタがある。メコン川がベトナムに流れてくると、9つの川に分かれて、9つの龍と呼ばれる。だから、メコンデルタはCuu Long（九龍平野）ともいわれる。熱帯モンスーン気候に属していて、南部は一年中暖かく、季節は雨季と乾季の二つに分かれている。温和な気候・豊かな自然環境に恵まれているため、南部はベトナムの中で最も発展している地域である。

メコンデルタはベトナムの最大の穀倉で、また、南



水上市場

部といえば、おいしい果物の産地でもある。多様な果物の中で、南部の人々の生活に欠かせないのはココナッツである。ココ

ナッツは実だけでなく、ココナッツのすべてが利用される。葉は屋根に用いられ、幹は箸、スプーン、茶碗などの食器をつくり、実の皮は手工芸品に使用されている。とくにココナッツの木に棲む虫は南部名物の食品である。



Caukhi（さる橋）

川が多いので、家と家はCaukhi（さる橋）でつながる。この橋は木を一本だけ使って、設けられるので、橋を渡るとき、さるのように速く歩くので、さる橋と呼ばれる。Caukhiも南部の名物だといえる。

Caukhiを渡ったり、ボートに乗ったりする生活に適するために、南部の人々は動きやすい衣服を着る。それはシルクシャツとゆるやかなサテンのズボンというAo ba ba（アオ・バ・バ）である。実は、アオ・バ・



南部の衣服

川が多いため、南部では最も使われる乗り物がボートである。農産物の収穫時期に、果物などを積んでいるボートは水上市場に集まって、すごくにぎやかな風景となる。また、川が多いので、家と家はCaukhi（さる橋）でつながる。この橋は木を一本だけ使って、設けられるので、橋を渡るとき、さるのように速く歩くので、さる橋と呼ばれる。Caukhiも南部の名物だといえる。

Caukhiを渡ったり、ボートに乗ったりする生活に適するために、南部の人々は動きやすい衣服を着る。それはシルクシャツとゆるやかなサテンのズボンというAo ba ba（アオ・バ・バ）である。実は、アオ・バ・

バの形はアオ・ザイと同じだが、長さだけが違う。アオ・ザイのスリットは膝も超えるけれど、アオ・バ・バは腰くらいまでである。それから、強い日差しを避けるのに欠かせないものは椰子の葉から作られる帽子（Non la）と白黒

スカーフ（Khan-ran）である。Non laをかぶって、Khan-ran

を巻いて、Ao-ba-baを着る南部の女性の姿はよく芸術作品に描かれている。

以上はベトナムの北部・中部・南部のそれぞれの特徴を簡単に紹介した。ベトナム人の誇っている「金の森、銀の海」の国として、ベトナムはまだまだまだたくさんの景色、祭り、風俗風習を持っている。

（（財）守屋留学生交流協会第23回奨学生 ゲン ハフーン）

財団法人「守屋留学生交流協会」は、1982年元帝国会社社長守屋紀美雄氏の株式の寄付によって設立、アジアからの留学生に奨学金を給付している。奨学生は現在までに18か国・地域231名。